

For Tracy Hyde Film Bleu

A1 There's A Story In Your Eyes, And I Will Read Between The Lines

A2 Her Sarah Records Collection

A3 SnoWish; Lemonade

B1 Outcider

B2 Crystal

B3 First Regrets

B4 Overexposure

A1. There's A Story In Your Eyes, And I Will Read Between The Lines 作曲：管梓
(instrumental)

A2. Her Sarah Records Collection 作詞・作曲：管梓

退屈に満ちた街の退屈な女の子の、取り立てて語ることもないような恋の話。
ひそかな憧れ。

「旧校舎の図書室に通いすぎる男の子。
かったるい目をして、どんな物語を夢見るんだろ」

いつか手を取り、ふたりで埃くさい部屋に小説を置き去りにして、
走り出したとき、口をついたメロディ――
たぶんそれは、水色のきらめき。

いつも同じ日々に、代わり映えない景色――
それもいま変わってゆくから。
霞と花の先、ふいに流れるメロディ。
たぶんそれは、彼女の心のなかのコレクションにもうあるんだ。

サラ・レコーズのコレクションと、
彼女の大切な思い出。
サラ・レコーズのコレクションと、
夏に恋するあの感じ。

A3. SnoWish; Lemonade 作詞・作曲：管梓

ああ、君を取り巻くすべてが杞憂でありますように。

打ち捨てられた舟のように怠惰にやり過ごす日々。
いつも誰かに言い訳をしてばかり。
校舎の片隅にできた仮設のエデンで、僕らがあくびをしていられるのも、
あと少し。

「ねえ、まるで夏の雪」とあどけなく微笑んだ君が頬張る、
儚く涼やかなデザート。

そう、虚ろな互いを認め合ういとまのあとにも、
そんな取るに足らない詩情を胸のなかに抱いててよ。
ああ、君を取り巻くすべてが杞憂でありますように。
僕らの重ねる冗談すべてほんとうになればいいな。

壁に貼られた絵葉書で海岸行きを想像しても、
結局どこへも行けやしないとわかってる。

曖昧にしたがる笑顔は君の悪い癖。
でも見とれてしまうのはあきらめか、それとも……？

もういろんなことが最後になってゆくけれど、
こんな他愛のない想いは打ち明けたら続くな。
窓に透る風、夏色の光圏、君の声。
過ぎた時間の意味を知るのは、いつもずっとあとで。

ああ、君を取り巻くすべてが杞憂でありますように。
僕らの重ねる冗談すべてほんとうになればいいな。
窓に降る白いかけらを指差しはしゃぐ君が見たいな。
ねえ、ましてやそれが7月ならば――なんて、夢の見すぎ？

B1. Outcider 作詞・作曲：Mav

蒼い呷に満月を見上げて、君はずっとなにを想ってるの？
白い街の結晶を見下ろして、もう過ぎ去った日々を思い出すの？

ラムネの瓶に閉じ込めたらビスラズリを見つめて、
甘く苦く過ぎてくこのシーンはどこへゆく？

吹き去って囁いた風に意識は奪われ、
焼きついたはずだった思い出も擦めてく。
そうやっていつだって、ほら、忘れてしまうんだ。
頼りないいまより、涼しげな過去のこと。

この世界のすべての青はどこから来てどこへ行ってしまうの？
いつかそれに気づいたとき、君はどういう表情を見せるの？

変わらないよ、あの頃から。
巡る季節のパノラマ。
わたしたちに残した胸の痛みが融けたら、

連れ立って駆けてった砂浜と犬の声。
煌めいて夢だった水の街のパレード。
疲れ切って行きついた木漏れ日に眠った、
忘れべき日のセピア色の風景。

満天の星が降って雪が頬を濡らして、
焼きついたはずだった思い出がじっと滲んだ。
そうやっていつだって忘れたいんじゃないんだ。
寂しげな過去じゃなく、いまだけを。

「もういいかい」「まあだだよ」なんて笑ってごまかして、
手を振って行ったのは、あの夏で待ってたわたし。
誰だって消え去っていくだけのイメージ。
夏の終わりを告げる沙風とともに、

さようなら。

B2. Crystal 作詞・作曲：管梓

少しだけ肌寒い24時ちょっと過ぎ、ときどき思い返してみたりするの。
この手には入らないものだらけの世界で、君を見つけてしまった、
透き通る夜のこと。

スピーカーを震わすビート。
その隙間からほんとは囁いてみたい言葉があったんだ。

「冷めた色の摩天楼街の片隅で、それでもどうにか心を満たしてよ」
そんなふうには言い出せないな……。
だって、僕が君を見るように君は僕を見ているの？

窓の向こう側の知らない街の灯が、眠る君をたやすく隠してしまう。
瓶に差した花の茜色がゆらいで、眠れぬ夜に君の目や髪や声を想う。

ヘッドフォンを外した瞬間が静かすぎて、
想像以上に大きいため息に気づく。
会いたいな。

いつかは打ち明けられるかな。
そんなひとときを夢見ているけれど、理想と現実は遠いな……。
だって、僕が君を見るように君は僕を見ているの？

B3. First Regrets 作詞・作曲：管梓

さようなら。
この窓のどんな景色さえも、僕らには優しかったね。
雪を待つ12月、白い息で走る坂道と、消えない痛み。

ノートの隙間に隠した気持ちぜんぶここから風に放してやる。

そして最初のひとひらが舞う灰の空を仰ぐ君に、
変わらず手を振る――僕らがゼロになる前に。
はじめでの後悔を君に捧げよう。

冷めたコーヒー缶、揺れるぶらんこ。
いつだっけ、この狭い公園が世界のすべてだと思えたのは。

ねえ、あの日あるとき伝えたことにひとつとして偽りはないかな。

いつか最後のひとひらが舞う朝に僕に出会う君は、
変わらず笑って――僕らがゼロになっても。
はじめでの後悔を君に捧げよう。

B4. Overexposure 作曲：Mav

(instrumental)

For Tracy Hyde

Film Bleu

C1 Favourite Blue

C2 Shady Lane Sherbet

C3 Emma

D1 あたたかくて甘い海

D2 fallingasleepinthepassengerseat

D3 After

D4 渚にて

C1. Favourite Blue 作詞・作曲：管梓

愛してるのは、冷たいからです。
ブルサイドのデレバシーで、きっとハートは「青」を知りました。
乱れ髪の手飾なので、終始ほつれ気味の未来に息を切らして、汗を拭うんです。

いつも君は光と影が織りなす淡いイメージの先で、
遠く見えるのはたぶん、曖昧な表情に眩んだ想いのディスプレイ。

どうかそこで待ってて——はやる気持ちが追いつくまで。
ふつつつと弾けだすソーダの泡、かきあげる髪の塩素の匂い。
ねえ、夏のはじめは水のいたずら。

大したことない仕事さえもシネマチックに映えだす日々です。
流れ出した新たなメロディ。
半透明の生活にガム・シロップを溶かし込んで、
ふたりきりで飲み干したいな。

いつか君の幻想と現実を赤いペンで答え合わせして、
浮かび上がる姿を知りたいと願っては、日射しのほうへ手を伸ばす。

どうか笑わないで、こんな言葉を聞いてくれるかな。
くると巻き回すフィルムには、どんなふたりが映るんだろうな。

ねえ、のぼせあがるほど求めてる、
風も色も声の音も涼やかに染め上げればいい!

どうかそこで待ってて——はやる気持ちが追いつくまで。
ふつつつと弾けだすソーダの泡、かきあげる髪の塩素の匂い。
ねえ、夏のはじめは水のいたずら。

冷たいから……!

C2. Shady Lane Sherbet 作詞・作曲：管梓

咲いた向日葵に架けて、水しぶきと陽光の瞬の虹。
サイダー色に君を染めて、気づけばふと、衝動と逡巡の恋。

日陰へ誘う言葉、仕掛けがいらぬのなら、
シェイディ・レイン・シャーベットに、ぜんぶ託すんだ。

シャイな口先でくれたかわいい嘘、ストローと戯れる指。
ライトなセリフに隠れた淡い意地も、ストロボに射抜かれるように。

日陰で占う言葉、ふざけては笑う僕ら。
シェイディ・レイン・シャーベットを、ちょっと融かすんだ。

C3. Emma 作詞・作曲：管梓

痛ほどに澄んでいる夜の深みが密かに、言葉なき言葉で満ちてゆく。

あなたの好きなものを僕だけに教えてよ。
ひとつでも、いくつでも、全部でも、知っていたい。

「その手の温みに触れたい、
紅差す頬に見とれたい、
おなじように息を呑みたい……」

そんな想いは言えなくて、
許されていない気がして、
見つめる先であなたの髪が銀河になっていた。

誰もいない遊園地——観覧車もカルーセルもふたりきりの、夢の中。

北の果てに降り積もる早すぎる雪を見たいな。
まっさらなあなたをまっさらな闇から見つけ出したい。

無理やりにでも連れ去りたい、
ずっと遠くへ逃げ出したい、
海辺の街でキスをしたい……。

「明日はどうしよう」なんて、
なにも思わない振りして、ゆだねて欲しいな。
朝になって、目を覚ますまでは。

D1. あたたかくて甘い海 作詞：管梓 作曲：Mav・管梓

エンド・ロールを知らない夢のなか。
泳いでいる理想の魚たちは、淡い紅いひれをなびかせていた。
甘い曖昧——この寂しさはなんで？

乳白のカーテンの向こう側へ連れ出して。
術ならなんだっていい。

心から体まで、繋がらない言葉が駆け巡る——たったひとつだけ伝えたくて。
その胸にあの海を抱えてここまできてよ。
あたたかくもなくなくて甘くもない、ほんとうの海を。

淡い紅いアザレアと指先。
甘い曖昧——触れたらきっと変わるから。

心から体まで、繋がらない言葉が駆け巡る——たったひとつだけ伝えたくて。
その胸にあの海を抱えてここまできてよ。
あたたかくもなくなくて甘くもない、ほんとうの海を。

D2. fallingasleepinthepassengerseat 作曲：管梓
(instrumental)

D3. After 作詞・作曲：管梓

どうして雨は止んでしまうのかなって、君との雨宿りのたびに考えてた。
通り過ぎたスクール、べたつく甘さと温度。
そんな日々もいまは昔？

どうしてもかすらない視線の先で、君は違う誰かを想い描いての？
飲み干したスクール、べたつく甘さと温度。
わたしの白昼夢はまだ覚めちゃいないのに。

揃いのミサンガはわたしの願いを叶えずり切れて、
空転する時間を静かに物語ってる。
いまだって手を伸ばすのに、
君が君じゃない錯覚がなに食わぬふりをさせるの。

教室に忘れた詩帳にも似た手紙の、フレーズがほつれて注ぐような、
追憶のスクール、ひとりきり思い出す——
そんな君じゃないとわかってる。

はじめて交わした言葉をいつしか忘れていたように、
長くて緩やかな終わりが続いていたのかな。
感傷と上手く折り合えずにいるのはわたしのほうなのに、
ずっと笑ってみせるから、
もどかしいな……。

ねえ？

許したふりがたやすいのは、
西射す光の角度が強がりも悲哀も絵に変えてしまうから。
許せないままでいるのはさ、きっと君のことだけじゃない。
濡った歩道の風に吹かれて、想うの。

D4. 渚にて 作詞・作曲：管梓

この休暇を終えたら、ちゃんと大人になろうね。
昨日とは違う神様、昨日とは違うアイロニー。
誰もが通る定めをたどるべき瞬間が僕らにも訪れたって、
それだけのことなんだよ。

歌のありかを知る君は、気づけばずっと先でくる踊る。
すみれ色の声を焼ける陽にさらした——晴れ空に取り繕った嘘に笑って。

いつも舌をもつれさせる3単語の台詞があって、
寄せては返す波のようにありふれていた物語。

素知らぬ顔して忍び寄る月。
なんとなく夜は懐かしい匂いで、
移ろうあれやこれやそれが、わけもなくちょっと怖くなったたりする。

ひとくち飲み残したラムネのぬるさに似た、
甘ったるい風に吹かれる横顔に、泣きたくなる。

愛に満たされすぎたら、苦しいくらいすべてがきれいに見えた、星の浜辺。
得体の知れないロマンにだまされ続ける時間を終えられるかな……？

いつか灰色をした街でVHSを巻き戻したって、
二度と戻らないふたりがいまここにいる——
渚にて。

ふだん通りに朝がきて、
なにも変わってない気がして、
でも、会わなくなって、会えなくなって、
交わす言葉も薄れていって、
「友達」のまま友達じゃなくなっていくけれど、

この休暇を終えたら、ちゃんと大人になるんだって。
さあ、帰ろうか——まだ眠たいけれど、

For Tracy Hyde are

eureka：Vocals
Natsubot：Six-string and Twelve-string Electric Guitars, Acoustic Guitar, Percussion, Programming, Vocals [Track C2]
U-1：Six-string Electric Guitar, Mandolin
Mav：Bass Guitar, Six-string and Twelve-string Electric Guitars, Acoustic Guitar, Percussion, Programming, Glockenspiel [Track B3]
Marcie：Drums

Guest Musicians

Tahnya：Saxophone [Track C3]
midori [Mugcup Collection, Kensei Ogata Band]：Chorus [Track D1]

Arranged and Produced by For Tracy Hyde
Recorded and Mixed at Koichizikan by Koichi Matsumoto [nakanoise]
Mastered at PEACE MUSIC by Soichiro Nakamura

Photography：Kodai Kobayashi
Model：海乃
Styling and Wardrobe：SHOGO (深緑)
Hair and Makeup：Hikaru Takada

A&R：Tomokazu Suga (P-VINE)

For Tracy Hyde would like to thank their families and their small circle of friends.

Official Website: <http://www.fortracyhyde.com>
Twitter：@ForTracyHyde